

平成28年度

看護科	I	教育理念 教育目的 等	教育理念・目的・目標を浸透させていくためを作成し、学生の行動特性について、更に教を行っていく必要がある。卒業時到達目標のする取り組みもあわせて行っていくことが必
	II	教育課程	老年看護学実習を変更し、時代を先取りしたから学習へと教員の意識も変わってきた。さ結びつくよう、見直しを図る必要がある。シきるよう進める必要がある。
	III	教育活動	外部講師に授業評価の目的に対する理解を得授業評価の実施に繋がり、活用に向けて基礎においては、各項目に対するコメントが少な明確さに欠ける。そのため、次年度は授業評正、データ化と分析に繋げることが課題とな内容及び活用方法を把握し教員が示すシラバいため、次年度内容の統一化、学生への活用
	IV	経営管理	寒い・臭いといった声が聞かれた保健室の場学業に専念できるよう暖房器具を北側の教室生の要望を反映させた相応しい環境づくりに用される図書室を目指し整備を行っていく。活動の継続した取り組みにむけて、研修へ参していく。避難訓練（火災）の評価を行い、し合わせたうえで内容・方法の検討をするこ備に取り組む必要がある。
	V	入学	学校案内(パンフレット)を見て学校を選んで学金のメリットが目立つので、学生が誤解する。次年度は教員も募集活動を行う予定であ
	VI	卒業・就職・進学	昨年度からラベルワークなどを取り入れ学生教育に取り組んだ。その結果、国試対策などが主体的に考え学ぶことにつながった。またすことなく面談の機会を捉え、学生が自ら將きるようサポートできた。

VII	地域社会	働きながらの学校であり地域社会に貢献して「介護の日」に、看護科・介護福祉科の協働益田市の市民学習センターにおいてイベント介護に対する理解と認識を深め、地域社会に流を促進する観点から、職業人としての育成のオリエンテーションが不十分であり、当日かった。今後は課題や反省点を踏まえて次になる。
VIII	研究	教員がラベルワークに取り組み参画教育に向ベルワークの研修会にほとんどの教員が参加習での成果と課題を発表した。方法について、効果的に行えるようにしていく。調査研表できるようにデータ化を進めていく。

介護福祉科	I	教育理念 教育目的 等	教育理念に合わせた介護福祉課の目標を立案達成目標を掲げ、学生が委員会活動を通してれるような支援を進めた。委員会活動の振りなので、次年度は明確になった課題に学生がよ支援が必要である。
	II	教育課程	段階ごとに実習要項の見直しを行い、全段階基づいて目的、目標を考え学生が意識を持っ出来た。実習評価についても評価内容を具体の見直しを行った。シラバスの活用につい協力を得ている。課題としてシラバス冊子ときるように取り組んでいく。
	III	教育活動	実習と卒業時共通試験日程を考慮した時間割9年度は、国家試験に合わせた時間割を調整修了試験において、国家試験合格や卒業に繋工夫し、役割について協働体制として教員に取り組みを行ったが、事業所間に格差が生じを図り、協働していくため事業所との連絡をしていく。

IV	経営管理	<p>学校運営においてはハード面ではPCが各職員より、共有フォルダが整備され情報共有が行効率化につながった。ソフト面においては介朝礼後のミーティングにより、情報共有もでなかった。しかし、学校全体となると一部のいる情報などあった。今後、学校全体の情報しなければならない。教育環境においては教の変更を行うことで学生が学習に集中できるた、図書室においては配置換えなどを行うこ用している姿を見かけるようになり利用率もた。</p> <p>2科ある学校として合同学習などを取り入れになった。前年度は教員も手探りの状況でのすままでにないラベルワークなどを含めた学習展ができたと思う。今後は目的やテーマなどを深める必要があると考える。</p> <p>学生への支援においては、例年通り健康支援施し学生と向き合った。また、次年度はレクの設定、活動を支援する。学生の自主的な活ように支援していく必要がある。</p>
V	入学	<p>28年度は募集要項を看護科と分けてわかりや計画的に行った。しかし、当初の目標であるく離職者訓練生も定員に満たしていない。看在学中から連携を意識して学べる環境について学生の受け入れに関して実現に向けて行動を</p>
VI	卒業・就職・進学	<p>2年生の卒業時共通試験対策として、国家試験過去問を使用した校内模試を実施し、教員で時間を設けた。また、結果がふるわなかったでは個別に指導を行うなど、一人ひとりの学助を実施した。就職支援に関しては、学生本がらも、日ごろ付き合いのある近隣の施設への貢献も意識した支援を行った。</p>

VII	地域社会	<p>地域への貢献の一環として、隣接するサッカーへの駐車場の開放や、吉賀高校のサクラマス会場提供など、地域活動への学校施設の開放た、地域との協力関係の面では夢花マラソン他、吉賀町社会福祉協議会や島根県福祉人材遣など、積極的に地域との関わりを持ち吉賀化された。また、「介護の日」イベントに看み地域へ出かける実践の場が増えた。そして会実現へと進んでいる。さらに地域と一体との企画を考えたい。まずは学園周囲の地区と看護科と計画する。</p>
VIII	研究	<p>校外に出ていく研修、職場内で行われた研修況にある。業務である講義や実習巡回に向け教員の実態がある。各教員の教育力向上を目できるように調整する。</p>

平成27年度

<p>に、理念の説明文書 員間で共有する活動 到達状況をデータ化 要である。</p>	<p>看護科</p>	<p>I</p>	<p>教育理念 教育目的 等</p>	<p>教育理念教育目的は入学時説明し ていない。教育理念教育目的目標 し、学年終了時学生のアンケート 理念・教育目的目標を啓蒙し、当 せるかかわりが必要である。</p>
<p>実習となった。教育 らに実習と講義とが ラバスを整え活用で</p>		<p>II</p>	<p>教育課程</p>	<p>部分部分で教育課程評価に取り組 し効果を得た。これらを活用して 程評価を組織的に取り組んでいく</p>
<p>たことで、全科目の 作りとなった。分析 いたため理由に対する 評価内容の検討と修 る。また、シラバス スが統一されていな Iを呼び掛ける。</p>		<p>III</p>	<p>教育活動</p>	<p>学生のアンケートの結果から、わ 価方法の説明の項目がやや低い。 がある。講師については時間数内</p>
<p>所を変更した。また に設置するなど、学 努めた。引き続き活 今後、ボランティア 加し、内容の検討を その他災害等と照ら とやマニュアルの整</p>		<p>IV</p>	<p>経営管理</p>	<p>情報のシステム化や教材、設備の を上げ取り組み、教材の適正利用 できていない現状を見直し、図書 いく。情報共有のためのネットワ ものを使用しているため、ネット 現状がある。教育の効果をデータ 学習者である学生への支援を強化</p>
<p>来る学生が多いが奨 ない工夫が必要であ る。</p>		<p>V</p>	<p>入学</p>	<p>学校案内を改善し、介護福祉科と た。広報活動も見直して学生を確</p>
<p>の思考を明確にして に対して、学生たち 、学生の変化を見逃 来を見据えて判断で</p>		<p>VI</p>	<p>卒業・就 職・進学</p>	<p>学習習慣化への支援に努め、学生 た。ラベルワークなど教育方法を して取り組み、学生の判断力の強</p>

<p>いる。平成28年11月 の学びの一環として を開催した。看護・ における支え合いや交 に取組んだ。事前 は戸惑う部分が多 つなげる必要があ</p>	VII	地域社会	働きながらの学生はすでに地域の としての育成を強化することで、 る。
<p>けて努力をした。ラ をし、老年看護学実 指導いただいたの 究については今後発</p>	VIII	研究	それぞれの教員が必要な研修に参 た。教員間でプロジェクト活動を き、他の教員への影響を与えた。 い、実習要綱の見直しや教育の効 足掛かりとなった。

<p>した。教室に卒業時 主体性を身につけら 返りを学生と行った り主体的に取り組む</p>	介護福祉科	I	教育理念 教育目的 等	入学時のオリエンテーションでは 意識化されていない。ラベルワー 士を育てたいか明らかにし、共有 理念・教育目的目標を啓蒙し、介 各自が明らかにできるように、ま を持たせるかかわりが必要である
<p>を通して実習理念に て実習に臨むことが 的に表し、評価基準 て、外部講師からの して、学生に提示で</p>		II	教育課程	教育の積み上げについて検討した タ化し教育効果を明らかにしてい 活用について検討を行い、学生が 要がある。外部講師にも協力を求 く。また教育内容に沿って教材等 る。学生の持つ力を発揮させ主体 必要がある。
<p>の調整を行った。2 していく。各科目の げる事が出来るよう よる事前訪問をする た。指導者との連携 密にとり実習を支援</p>		III	教育活動	学生個々の状況に合わせた個別指 ぶまれた学生にも効果を上げ、卒 業評価を組織的に検討して実施し の内容も学生の思考や倫理観の育 していく。

員に配置されたことにより、いやすくなり業務の保護福祉科のなかでは大きなトラブルは人のみで共有されて共有のあり方を検討室の椅子、カーテン環境となった。また、とで、毎日学生が利用に見えて上昇し
本校ならではの特色とスタートだったが、今開を身につけること再検討し合同学習を
や個別面談などを実施リエーション部など活動として継続できる
やすくし、広報活動を一般生の確保は厳し護科との合同学習、てのPRを進める。留始めた。
験・卒業時共通試験の分担してその解説の学生や希望者に対し生に合った指導、援助人の希望を尊重しながら紹介するなど、地域

IV	経営管理	教材の整理を行い、保管方法も検査やすく配置し、学生の自主的な学習消防訓練など計画的に行って応策を検討していく必要があり、理についての学習ともなる。学習でパイプ椅子を使用しており、集る。保健室の整備も必要で、またの意見が多く改善の必要がある。
V	入学	学校案内を作成しなおし、学生募てきた。広島への広報など地域も日時を検討して実施した。留学生る。学生の住環境の整備を実施し、新たな教育活動へ転換を図るPR/広報活動をしていきたい。
VI	卒業・就職・進学	地域の施設や行政とも協力して介生にも広げていく体制づくりを始催参加など地域貢献を目指してい

<p>一場で行われる大会 ・プロジェクトへの を行っている。ま や七カ祭への参加の センターへの講師派 町との協力体制が強 護科と一緒に取り組 、六日市苑との音楽 なって取り組むため の関係構築に向けて</p>	VII	地域社会	地域の生活に密着した学生生活が直した。また同窓会から学校への携強化を図った。同窓会の開催やを運んでくれるようになり、卒業域との繋がりを強化した。
<p>にも参加が難しい状 て全力投球している 指して研修会へ参加</p>	VIII	研究	研修会の参加などシステムづくりデータ化したり、公開授業・研究たい。

ているが、日々の中で意識され
について評価する必要性を実感
を実施した。日々の行動に教育
校で学ぶ学生として誇りを持た

むとともに教育内容方法を開発
、評価方法をも検討して教育課
必要がある。

かりやすい授業、学習内容や評
シラバスの活用など改善の余地
内容など見直しを行った。

点検整備に取り組んだ。改善点
など努めた。今後図書の利用が
の適正な購入や活用を検討して
ーク整備を行った。PCを個人の
ワーク化に困難をきたしている
化していきたい。働きながらの
していく。

1つにして活用できるようにし
保する。

個々に合わせた指導を実施し
取り入れ、学生の思考を明確に
化を図った。

社会貢献を行っている。職業人
効果的に学生の意識に上らせ

加し、教育実践能力を向上させ
通して教育観を広げることがで
研究的な視点で、実習評価を行
果のデータ化を図り、研究への

伝えているが、日々の教育では
クでシンプルにどんな介護福祉
化を図った。日々の行動に教育
護福祉士としての考え方を学生
た、当校で学ぶ学生として誇り
。

。これらの見直しの結果をデー
く必要がある。またシラバスの
主体的に学べる環境をつくる必
めシラバスの様式を見直してい
を効果的に活用する必要があ
的に学ぶ課題など工夫していく

導を充実させてきた。卒業も危
業につながった。学生による授
ていくことが課題である。教育
成など効果を上げる方法を検討

討した。実習室等の物品も使い
習支援となった。危機管理につ
いるが、防災関連についての対
それらは卒業後の学生の危機管
環境としては、1日8時間の講義
中力を増す環境づくりを要す
図書についても利用しにくいと

集に関していろいろな策を講じ
広げたり、説明会開催も場所や
への受け入れも検討し進めてい
た。看護科との合同学習を実施
た。当校の教育の特色として

護福祉士の活動など小学生中学
めた。地域への就職、行事の開
る。

送ることができるよう行事等見
支援が強化され、卒業生との連
学校見学にと卒業生が学校へ足
生との連携強化を図ることで地

が課題となった。教育の効果を
授業の開催など取り組んでいき